

「水曜サロン with 赤堀会長」第6期 第1回(通算76回)

人口減少社会に不可欠な教育 DX

1. 内容

- 人口減少は社会の様々なところに影響を及ぼす。夜中にバスもタクシーもない。病院・医師も減っていく。需給マッチが難しい。
- 需要の方が供給に合わせていった社会だったが、需要にフィットして供給を効率よく当てていくオンデマンド性、遠隔という要素が質の維持には必要。教育も同様。
- 生徒も先生も減り、先生の資質も恐らく平均的には下がっていく中で、個別最適な学習が求められる。先生の得意な部分を発揮できる個別最適化を行っていかなければ日本の教育水準を保てなくなるのではないか。
- 需要に対して供給側が質を維持して持続可能にするためにはデータ連携が重要である。目の前の業務改善だけでなく、長期視点で、構造化されたデータを利用してDXを果たすことが大切である。

2. 所感

人口減少についてはこれまでも教育の世界で言われてきたことではありますが、「人口減少局面の社会では、供給が需要にフィットしていかなければ質の高いサービスを持続していくことはできない、モビリティも医療も教育も同じである」という視点を提示されたのは鮮烈でした。個別最適な学習が言われ始めた背景は様々ありますが、人口減少局面における必然であったと思えるお話でした。

質疑応答の中で、今後の学校の在り方について、「極論だが」と断りを入れられたうえで、「コーチ付きの良い図書館」になるとよいというお考えを示されました。今の先生は、板書して教えることとモチベーションを与えて子供たちを引っ張ることの両方をやっている状況である。教えるところをデジタルに置き換えていって、ヒューマンタッチのコミュニケーション、コーチングのウェイトが上がっていくことが大事、というお話でした。GIGA 端末が導入され、校務支援システムの整備が進んできた過渡期であるからこそその先生方の多忙さがあるように思います。教えることの比重が下がることで働き方改革と学び方の改革の両方が達成できるのではないかという明るい未来が垣間見えました。一方で、そのためには、高校入試、大学入試の在り方、さらには学習指導要領、教科書の位置づけをどうしていくのか、トータルをデザインしなおす必要があり、一朝一夕では変えられない課題の大きさを感じました。

また、教育に限らず、自治体の行政用システム全体の課題として、各基礎自治体がバラバラに同時にシステムを開発・調達していることの非効率さについての問題意識をお話いただきました。今は各自治体で作った仕様に基づいてシステムを開発・調達しているが、今後、業務が標準化され機能要件がそろっていけば、開発そのものでの差別化はできなくなり、運用時のトラブル対応支援等、身近で相談に乗ってくれることの付加価値が高まるはずであり、そこにお金を払うマーケットに変えていくべきである、との見解が示されました。GIGA 端末や校務支援システムの都道府県主導による共同調達が推進され、小規模自治体の教育委員会にとってはDXが進めやすい環境になってきているように思います。教員の働き方改革だけでなく、指導主事の事務的な業務も削減し、教育の質の面にコミットできる時間を作り出していくことも重要であるとあらためて感じました。

齒に衣を着せぬ語り口で、終始刺激的なお話でした。村上さん、ありがとうございました。